

平成 20 年度

## 病害虫発生予報第 3 号

平成 20 年 6 月 26 日

### 三重県病害虫防除所

515-2316 三重県松阪市嬉野川北町 530

TEL 0598-42-6365 Fax 0598-42-7568

ホームページ<http://www.mate.pref.mie.jp/bojyosyo>

## 目次

	ページ
1. 向こう 1 か月の予報と対策	1
2. 作物別の状況	2
3. 発生時期・発生量（平年比）の予察根拠	8
4. 予察項目の見方	14
5. 今月のトピックス（斑点米カメムシ類について）	15
6. 気象のデータ	16
7. おしらせ	18

## 1. 向こう 1 か月の予報と対策

### 1) 普通作物

イネでは、いもち病の発生時期は穂いもちで平年並、また発生量は葉いもち、穂いもちで平年並と予想されます。紋枯病の発生時期、発生量は平年並、白葉枯病の発生量はやや少と予想されます。セジロウンカの発生時期、発生量は平年並、斑点米カメムシ類の発生量は平年並と予想されます。イネクロカメムシの発生量はやや少と予想されます。ツマグロヨコバイの発生量はやや多と予想されますが、防除が必要なほどではないと思われます。

いもち病の発生に注意して適期防除を心がけてください。

### 2) 果樹

カンキツでは、そうか病、かいよう病（温州みかん、中晩柑類）の発生量は少、ミカンハダニ、チャノキイロアザミウマの発生量はやや少、黒点病の発生量は平年並と予想されます。

ナシでは、ハダニ類の発生量はやや少と予想されます。黒星病の発生量は平年並と予想されますが、今後の降雨に注意して予防防除を実施してく

ださい。

ブドウでは、べと病の発生量は平年並と予想されますが、今後の降雨に注意して予防防除を実施してください。

果樹カメムシ類の発生量は、やや少と予想されます。

### 3) 茶

チャでは、炭疽病の発生量はやや多と予想されます。今後の降雨に注意して予防防除を実施してください。チャノホソガの発生量はやや多と予想されますので、発生に注意してください。チャノミドリヒメヨコバイ、チャノキイロアザミウマ、クワシロカイガラムシ、チャノコカクモンハマキの発生量は平年並、カンザワハダニの発生量はやや少と予想されます。

### 4) 野菜

イチゴでは、うどんこ病、及びハダニ類の発生量はやや少と予想されます。炭疽病は平年並と予想されます。炭疽病については今後の降雨に注意して、予防防除を実施してください。

ネギでは、ネギコガの発生量はやや少と予想されます。

## 2. 作物別の状況

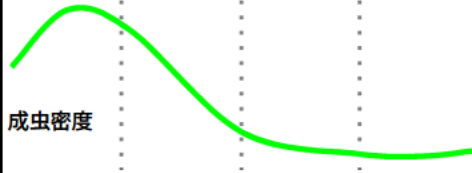
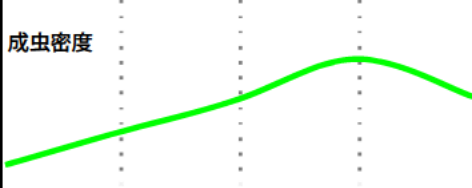


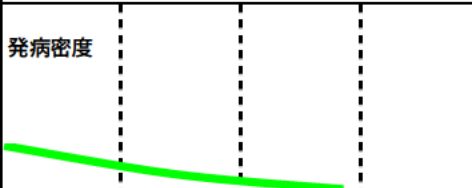
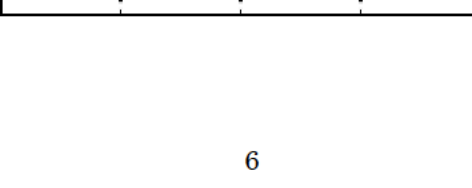
作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生消長の一例				防除の注意事項
						6月	7月			
							下旬	上旬	中旬	
イネ	葉いもち	—	平年並	中	普通					1) 6月24日に病害虫防除技術情報(第3号)を公表しました。 2) 圃場を見まわり、発生に注意してください。 3) 発生がみられたら早急に防除してください。
	穂いもち	平年並	平年並	中	普通					1) 上位葉で葉いもちが多く見られる時は、穂いもちへの移行が懸念されます。 2) 穂いもちは減収に結びつきますので、穂孕み期の予防散布に重点をおいてください。
	紋枯病	平年並	平年並	小	普通					1) 梅雨明け後、気温が上昇し感染適温になります。 2) 前年発生が多かった圃場では特に注意してください。 3) 上位葉への病斑進展阻止に重点をおき防除してください。
	白葉枯病	—	やや少	小	低					1) 冠水、強風雨のあとで急に発生することがあります。 2) 「みえのゆめ」は弱い品種なので特に注意してください。
	斑点米カメムシ類	—	平年並	小	普通					1) 出穂10日位前までに水田周辺を除草してください。 2) 出穂の早い水田を集中的に加害するので、早生品種では注意が必要です。 3) 地域一斉防除は防除効果が高まります。

作物名	病虫害名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生消長の一例				防除の注意事項		
			平年比	平年比		程度	平年比	6月	7月			
								下旬	上旬		中旬	下旬
イネ	イネクロカメムシ	—	やや少	小	普通					<ol style="list-style-type: none"> <li>1) この時期はイネの葉先が白く縮れる症状が現れます。</li> <li>2) 近年、被害で減収する圃場が増えていますので、発生が多い圃場では注意が必要です。</li> <li>3) 日中は株元に潜んでいるので、夕方や曇天の日に薬剤散布を行うと効果的です。</li> </ol>		
	ツマグロヨコバイ	—	やや多	中	低					<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 当面、防除が必要な密度には達しないと思われます。</li> </ol>		
	セジロウンカ	平年並	平年並	小	低					<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 多飛来が認められれば病虫害防除技術情報等で発表しますので、その時は圃場での発生状況に注意してください。</li> </ol>		
カンキツ	そうか病	—	少	小	低					<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 常発園、幼木園、高接ぎ更新園の温州ミカンでは、発生に注意してください。</li> <li>2) 果実への感染は梅雨末期頃までといわれています。</li> </ol>		
	黒点病	—	平年並	小	普通					<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 枯枝は重要な伝染源です。園内、樹内の枯枝除去を行い、病原菌密度を下げてください。</li> <li>2) 薬剤散布は前回の散布後に積算降水量が200～300mmに達した時を目安に実施してください。</li> </ol>		

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生消長の一例				防除の注意事項
			平年比	程度		6月	7月			
						下旬	上旬	中旬	下旬	
カンキツ	かいよう病	—	温州少 中晩柑少	小 小	低 低	発病密度				<ol style="list-style-type: none"> <li>7月が果実での発病最盛期になります。</li> <li>伝染源となる発病枝葉、果実は、見つけ次第剪除し処分してください。</li> <li>高接樹や幼木ではミカンハモグリガの被害部に発病しやすいので、ミカンハモグリガの防除を実施してください。</li> </ol>
	ミカンハダニ	—	やや少	中	普通	ダニ密度				<ol style="list-style-type: none"> <li>1葉当たりの雌成虫発生数が0.5～1.0頭程度を目安に防除してください。</li> <li>薬剤は葉裏にもかかるように散布してください。</li> <li>世代交代が早く薬剤に対する抵抗性を獲得しやすいため、同一系統の薬剤の連用は避けてください。</li> </ol>
	チャノキイロアザミウマ	—	やや少	小	普通	成虫密度				<ol style="list-style-type: none"> <li>発生の多い園や被害果の見られる圃場では、寄生果率10%を目安に防除してください。</li> <li>7月になり果実肥大が進むと果頂部で加害します。</li> <li>圃場周辺のイヌマキ・サングジュ・チャ等が発生源となります。</li> </ol>
ナシ	黒星病	—	平年並	小	普通	発病密度				<ol style="list-style-type: none"> <li>発病が確認される圃場では、基幹防除を実施し、追加防除も計画してください。</li> <li>発病果及び発病葉は除去して、圃場外に持ち出し処分してください。</li> <li>薬剤散布を実施するときは薬剤をていねいに散布し、同一系統薬剤の連用を避けてください。</li> </ol>
	ハダニ類	—	やや少	中	普通	ダニ密度				<ol style="list-style-type: none"> <li>一般には7～8月に密度が高くなります。</li> <li>この時期に高密度になるとナシの発育枝に被害を与えて、果実肥大に影響します。</li> <li>1葉当たり寄生数が1～2頭で防除を実施してください。</li> <li>抵抗性を獲得しやすいので、同じ薬剤の連用は避けてください。</li> </ol>

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生消長の一例				防除の注意事項							
			発生量	程度		6月	7月										
						下旬	上旬	中旬	下旬								
ブドウ	べと病	—	平年並	小	普通					<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 降雨が連続すると、病徴が急速に進展するので、葉裏に病斑を認めたら直ちに薬剤を散布してください。</li> <li>2) 降水量は本病の発生と深い関係があります。降雨の合間に防除を計画してください。</li> <li>3) 被害葉及び被害落葉は感染源となるので圃場外に持ち出して処分してください。</li> <li>4) 薬剤散布にあたっては同一系統薬剤の連用を避けてください。</li> </ol>							
						果樹共通	カメムシ類	—	やや少		小	普通					<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 梅雨明け後にはナシ園地に飛来することがあります。</li> <li>2) 局所的に密度が高まるときがあります。まとまった飛来を確認したら、防除を実施してください。</li> <li>3) 発生が見られない圃場では、防除の必要はありません。</li> </ol>
													チャ	炭疽病	—	やや多	
カンザワハダニ	—	やや少	小	普通						<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 地域や茶園によって発生の差が大きく異なります。</li> <li>2) 多発すると防除が困難なので、初期の防除が重要です。</li> <li>3) 世代交代が早く、薬剤に対する抵抗性を獲得しやすいため、同一系統の薬剤の連用を避けてください。</li> </ol>							
					チャノホソガ	—	やや多	小	普通						<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 幼虫の孵化直後が防除適期です。脱皮阻害剤を使用する場合は、卵期が防除適期で少し早めです。</li> <li>2) 一番茶摘採後、深刈り更新等を行なった圃場では、巻葉や次世代の発生に注意してください。</li> </ol>		



作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生消長の一例				防除の注意事項
			発生量	程度		6月	7月			
						下旬	上旬	中旬	下旬	
チャ	チャノミドリヒメヨコバイ	—	平年並	小	普通					1) 三番茶の生育期は発生しやすい時期なので2葉期までに防除が必要です。
	チャノキイロアザミウマ	—	平年並	中	普通					1) 三番茶期は発生および被害が多いので、2葉期までに防除が必要です。
	クワシロカイガラムシ	—	平年並	小	普通					1) 第1世代防除が実施できなかった圃場では、第2世代幼虫発生期の防除を計画してください。 2) 多発圃場では深刈り更新と防除を組み合わせると効果的です。 3) 防除適期は、孵化最盛期から5~7日後です。
	チャノコカクモンハマキ	—	平年並	小	普通					1) 若齢幼虫期に防除してください。 2) 二番茶後に刈り落としを行うところでは防除の必要はありません。 3) 一番茶摘採後に深刈り更新等を行なった圃場では、発生に注意して防除を計画して下さい。
イチゴ	うどんこ病	—	やや少	中	普通					1) 薬剤散布は、葉かき後の予防に重点をおきますが、発病を認めたときは、集中的に散布して感染の拡大を防いでください。 2) 葉裏から発生しやすいので、薬液が葉裏にかかるよう丁寧に散布してください。

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生消長の一例				防除の注意事項		
			平年比	平年比		程度	平年比	6月			7月	
								下旬	中旬		下旬	中旬
イチゴ	炭疽病	—	平年並	中	普通					<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 病原菌の生育適温は28～30℃で、高温を好みます。</li> <li>2) これからの高温期にかけて、葉かき後の定期的な防除と、降雨後の防除を実施してください。</li> <li>3) 薬剤散布は、株元まで十分かかるよう、畝やベンチの両側からも散布してください。</li> <li>4) 灌水は、水滴が跳ね返り茎葉に当たらないようにしてください。(チューブ灌水かやさしく丁寧な手灌水)</li> </ol>		
	ハダニ類	—	やや少	小	普通						<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 親株床、育苗床周辺でハダニ類が発生している場合には、その作物を収穫したり、除草したりするとハダニが侵入してくるので注意してください。</li> <li>2) 葉かき後、葉裏を中心に薬剤を散布してください。</li> <li>3) 葉かき後の残渣は圃場外で確実に処分してください。</li> <li>4) 抵抗性が発達しやすいので、同一薬剤や同一系統薬剤の連用は避けてください。</li> </ol>	
ネギ	ネギコガ	—	やや少	小	普通					<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 幼虫が葉の内部に潜るので、発生の初期から防除しましょう。</li> </ol>		

### 3. 発生時期・発生量（平年比）の予察根拠

作物名	病虫害名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
イネ	葉いもち	-	平年並	<p>要因</p> <p>1) 巡回調査圃場（6月第2週）では、本田での発生は未確認（発生量 -）</p> <p>2) 1か月予報（6月20日）によると、平年と同様に曇りや雨の日が多い予想（±）</p> <p>3) 6月下旬におけるプラスタムによる感染好適条件の出現量は平年並の状況（±）</p> <p>4) 一般圃場では、発生量は無～並（概してやや少）（-）</p> <p>考察： 気象要因を重視して発生量は平年並と考えます。</p>
	穂いもち	平年並	平年並	<p>要因</p> <p>1) イネの出穂期は平年並と予想（発生時期±）</p> <p>2) 1か月予報（6月20日）によると、平年と同様に曇りや雨の日が多い予想（±）</p> <p>3) 葉いもちは平年並の予想（±）</p> <p>考察： イネの出穂予測から発生時期は平年並、気象要因を重視して発生量は平年並と考えます。</p>
	紋枯病	平年並	平年並	<p>要因</p> <p>1) イネの生育段階は平年並（発生時期±）</p> <p>2) 1か月予報（6月20日）によると、平年と同様に曇りや雨の日が多い予想（±）</p> <p>3) イネの茎数は平年並（発生量±）</p> <p>4) 昨年8月の平均発病株率は13.4%（平年14.7%）でやや少のため、越冬菌核量もやや少と予想（-）</p> <p>考察： イネの生育状況から発生時期は平年並、また特に増減要因がないので発生量は平年並と考えます。</p>
	白葉枯病	-	やや少	<p>要因</p> <p>1) これまでに多量の日降雨量を記録したのは6月5日の県南部のみ（-）</p> <p>考察： これまでのところ激しい風雨や冠水は少ないので、発生量はやや少と考えます。</p>
	斑点米カメムシ類	-	平年並	<p>要因</p> <p>1) 巡回調査圃場（6月第2週）では、畦畔イネ科雑草すくいとりで発生地点率は37.4%（7年平均30.4%）と平年並の傾向（±）</p> <p>考察： 特に増減要因はないので、発生量は平年並と考えます。</p>



作物名	病虫害名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
イネ	イネクロカメムシ	-	やや少	<p>要因</p> <p>1) 巡回調査圃場(6月第2週)では、発生圃場率1.1%(平年4.7%)と少 (-)</p> <p>2) 県予察灯(松阪市・6月第3半旬まで)では、誘殺数は水田位置5頭(平年4.2頭)でやや多、畑位置215頭(平年89.3頭)で多 (+)</p> <p>3) 一般圃場では、発生は無~平年並(概してやや少) (-)</p> <p>考察: 巡回調査結果と一般圃場を重視して発生量はとやや少考えます。</p>
	ツマグロヨコバイ	-	やや多	<p>要因</p> <p>1) 県予察灯(松阪市・6月第4半旬まで)では、誘殺数は0頭(平年8.5頭)で少 (-)</p> <p>2) 巡回調査圃場(6月第2週)では、払い落とし虫数(25株当)は成虫で0.17頭(平年0.007頭)と多、幼虫で0.44頭(同0.08頭)と多 (+)</p> <p>3) 一般圃場では、発生は無~平年並(概して無) (-)</p> <p>考察: 巡回調査の結果を重視して、発生量はやや多と考えます。</p>
	セジロウンカ	平年並	平年並	<p>要因</p> <p>1) 予察灯(県内4か所)では、6月21日現在で未飛来(県予察圃平年初飛来6月30日) (発生時期±)</p> <p>2) 巡回調査圃場(6月第2週)では、払い落とし虫数(25株当)は成虫で0頭(平年0.16頭)と平年並の傾向(±)</p> <p>3) 九州各県では、6月中旬まで多飛来を未観測 (-)</p> <p>4) リアルタイムウンカ飛来予測(NARC等調査)では、6月22日現在県内全域で未飛来を予測 (-)</p> <p>考察: これまでの全国での飛来状況から、発生時期は平年並、また当面は密度が大きく上昇することはないと予想されるので、発生量は平年並と考えます。</p>
カンキツ	そうか病	-	少	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(6月20日発表)によると、平年と同様に曇りや雨の日が多い予想 (±)</p> <p>2) 県予察圃(6月中旬)では、発病葉率66.5%(平年59.2%)と多、発病果率45.0%(平年53.4%)と少 (±)</p> <p>3) 巡回調査圃場(6月第2週)では、病斑は未確認(平年春葉発病度0.5) (-)</p> <p>4) 一般圃場では、発生量は少~平年並(概して少) (-)</p> <p>考察: 急増する要因はなく、今後の増加を勘案しても予想発生量は少と考えます。</p>
	黒点病	-	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(6月20日発表)によると、平年と同様に曇りや雨の日が多い予想 (±)</p> <p>2) 県予察圃(6月中旬)では、果実発病度7.7(平年4.7)と多 (+)</p> <p>3) 着果不足が予想されたため、剪定が軽い園が多く、感染源となる枯れ枝は多い状況 (+)</p> <p>4) 一般圃場では、発生量は少 (-)</p> <p>考察: 今後の気象条件を勘案して、予想発生量は平年並と考えます。</p>

作物名	病虫害名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
カンキツ	かいよう病	-	温州 少 中晩柑 少	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(6月20日発表)によると、平年と同様に曇りや雨の日が多い予想 (±)</p> <p>2) 県予察圃における果実での初発は、6月3日(平年6月12日)と早 (+)</p> <p>3) 県予察圃(6月中旬)では、発病葉率6.5%(平年14.8%)と少、発病果率1.7%(平年3.2%)とやや少 (-)</p> <p>4) 巡回調査圃場(6月第2週)では、新葉における発病は温州みかんでは認められず、中晩柑では平均発病度0.8と少の傾向 (-)</p> <p>5) 一般圃場では、発生量は少~平年並(概して少) (-)</p> <p>考察: 大きな増減の要因はなく、今後の増加を勘案しても予想発生量は温州みかん、中晩柑類とも少と考えます。</p>
	ミカンハダニ	-	やや少	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(6月20日発表)によると、平年と同様に曇りや雨の日が多い予想 (±)</p> <p>2) 県予察圃(6月中旬)では、100葉当寄生虫数は、無防除区で11.1頭(平年20.3頭)、防除区で0頭(平年11.7頭)と少 (-)</p> <p>3) 巡回調査圃場(6月第2週)では、新葉における平均寄生葉率は10.3%(平年9.4%)と平年並、1葉当平均寄生虫数は0.18頭(平年0.11頭)と平年並 (±)</p> <p>4) 一般圃場では、発生量は少~やや少(概して少) (-)</p> <p>考察: 現状の発生量は少と考えますが、今後の増加を勘案して、予想発生量はやや少と考えます。</p>
	チャノキイロアザミウマ	-	やや少	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(6月20日発表)によると、平年と同様に曇りや雨の日が多い予想 (±)</p> <p>2) 県予察圃(6月上旬)では、粘着トラップへの誘殺数は0.3頭(平年0.1頭)とやや多 (+)</p> <p>3) 巡回調査圃場(6月第2週)では、果実寄生は未確認 (-)</p> <p>4) 一般圃場では、発生量はやや少 (-)</p> <p>考察: 一般圃場の発生状況を重視して、予想発生量はやや少と考えます。</p>
ナシ	黒星病	-	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(6月20日発表)によると、平年と同様に曇りや雨の日が多い予想 (±)</p> <p>2) 巡回調査圃場(6月第2週)では、平均発病葉率2.4%(平年0.2%)と一部地域で多い傾向 (+)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量はやや少~やや多(概して平年並) (±)</p> <p>考察: 一般圃場の発生状況を重視して、予想発生量は平年並と考えます。</p>
	ハダニ類	-	やや少	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(6月20日発表)によると、平年と同様に曇りや雨の日が多い予想 (±)</p> <p>2) 巡回調査圃場(6月第2週)では、平均寄生葉率は0%(平年1.4%)と少の傾向、1葉当平均寄生虫数は0頭(平年0.09頭)と少の傾向 (-)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量は少~平年並(概してやや少) (-)</p> <p>考察: 今後の気象条件を勘案しても、予想発生量はやや少と考えます。</p>

作物名	病虫害名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
ブドウ	べと病	-	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(6月20日発表)によると、平年と同様に曇りや雨の日が多い予想 (±)</p> <p>2) 巡回調査圃場(6月第2週)では、発病は未確認(平年発病葉率2.5%) (±)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量は少~平年並(概してやや少)で、一部で発病を確認 (+)</p> <p>考察: 今後の増加を勘案して、予想発生量は平年並と考えます。</p>
果樹共通	カメムシ類	-	やや少	<p>要因</p> <p>1) 予察灯(御浜町:4月1日~6月10日)では、誘殺数はチャバネアオカメムシ69頭(平年1,080頭)と少、ツヤアオカメムシ871頭(平年2,515頭)と少 (-)</p> <p>2) 予察灯(畑・松阪市:4月1日~6月20日)では、誘殺数はチャバネアオカメムシ595頭(平年388頭)とやや多(+)、ツヤアオカメムシ177頭(平年74頭)と多(+)</p> <p>3) フェロモントラップ(4月1日~6月16日)では、チャバネアオカメムシ誘殺数は、山地(津市白山町川口)で331頭(平年481頭)とやや少の傾向、中間地(津市白山町二本木)で1,399頭(平年696頭)と多の傾向、平坦地(松阪市嬉野川北町)で74頭(平年113頭)とやや少の傾向 (±)</p> <p>4) 巡回調査圃場(6月第2週)では、圃場への飛来は未確認 (-)</p> <p>5) 一般圃場では、少~やや多(概してやや少) (-)</p> <p>考察: 今後、一部の果樹園には飛来する可能性はあると考えられますが、予想発生量はやや少と考えます。</p>
チャ	炭疽病	-	やや多	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(6月20日発表)によると、平年と同様に曇りや雨の日が多い予想 (±)</p> <p>2) 巡回調査圃場(6月第2週)では、1㎡当平均発病葉数は0.2(平年0.04)とやや多で、一部で発病を確認 (+)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量は少~平年並(概して平年並) (±)</p> <p>考察: 今後の増加を勘案して、予想発生量はやや多と考えます。</p>
	カンザワハダニ	-	やや少	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(6月20日発表)によると、平年と同様に曇りや雨の日が多い予想 (±)</p> <p>2) 県予察圃(6月中旬)では、寄生葉率は3%(平年5.1%)とやや少(-)、1葉当寄生虫数は0.04頭(平年0.004頭)とやや多(+) (±)</p> <p>3) 巡回調査圃場(6月第2週)では、平均寄生葉率は0.8%(平年7.1%)と少、平均寄生虫数は0.01頭(平年0.28頭)と少の傾向 (-)</p> <p>4) 一般圃場では、発生量は少~多(概して少) (-)</p> <p>考察: 現状発生は少と考えますが、今後の増加を勘案して、予想発生量はやや少と考えます。</p>

作物名	病虫害名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
チャ	チャノホソガ	-	やや多	<p>要因</p> <p>1) 県予察圃フェロモントラップ(5月第1~6月第4半旬)では、誘殺数は3,231頭(平年4,391頭)と少 (-)</p> <p>2) 巡回調査圃場(6月第2週)では、1㎡当平均巻葉数は0.6(平年0.2)とやや多 (+)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量は平年並~多(概してやや多) (+)</p> <p>考察: 現状発生はやや多と考えられ、増減の要因はなく、予想発生量はやや多と考えます。</p>
	チャノミドリヒメヨコバイ	-	平年並	<p>要因</p> <p>1) 県予察圃吸引粘着トラップ(4月第1~6月第4半旬)では、誘殺数は36頭(平年20頭)と多 (+)</p> <p>2) 巡回調査圃場(6月第2週)では、平均たたき落とし虫数は0.4頭(平年1.4頭)と少 (-)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量は平年並~やや多(概して平年並) (±)</p> <p>考察: 大きな増減の要因はなく、今後の増加を勘案しても予想発生量は平年並と考えます。</p>
	チャノキイロアザミウマ	-	平年並	<p>要因</p> <p>1) 県予察圃吸引粘着トラップ(4月第1~6月第4半旬)では、誘殺数は8,308頭(平年6,274頭)と多 (+)</p> <p>2) 巡回調査圃場(6月第2週)では、平均たたき落とし虫数は5.3頭(平年18.7頭)と少 (-)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量は平年並~やや多(概して平年並) (±)</p> <p>考察: 大きな増減の要因はなく、今後の増加を勘案しても予想発生量は平年並と考えます。</p>
	クワシロカイガラムシ	-	平年並	<p>要因</p> <p>1) 巡回調査圃場(6月第2週)では、雄マユ平均寄生株率は10.7%(平年16.0%)と少 (-)</p> <p>2) 一般圃場では、発生量はやや少~平年並(概して平年並) (±)</p> <p>考察: 一般圃場の発生状況を重視して、第2世代幼虫の予想発生量は平年並と考えます。</p>
	チャノコカクモンハマキ	-	平年並	<p>要因</p> <p>1) 県予察圃フェロモントラップ(4月第1~6月第4半旬)では、誘殺数は1,070頭(平年641頭)と多 (+)</p> <p>2) 巡回調査圃場(6月第2週)では、1㎡当巻葉数は0(平年0.02)と少 (-)</p> <p>3) 一般圃場では、発生量は平年並 (±)</p> <p>考察: 大きな増減の要因はなく、予想発生量は平年並と考えます。</p>
イチゴ	うどんこ病	-	やや少	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(6月20日発表)によると、平年と同様曇りや雨の日が多い予想 (±)</p> <p>2) 巡回調査圃場(6月第2週)では、発病株率0.8%(4年平均16.2%)と少の傾向 (-)</p> <p>3) 一般圃場での発生は、無~やや多(概して平年並) (±)</p> <p>考察: 大きな増減の要因はなく、予想発生量はやや少と考えます。</p>

作物名	病虫害名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
イチゴ	炭疽病	-	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(6月20日発表)によると、平年と同様曇りや雨の日が多い予想 (±)</p> <p>2) 巡回調査圃場(6月第2週)では、発病株率0%(平年0.02%)と平年並の傾向 (±)</p> <p>3) 一般圃場での発生は、無~並(概して平年並) (±)</p> <p>考察: 大きな増減の要因はなく、予想発生量は平年並と考えます。</p>
	ハダニ類	-	やや少	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報(6月20日発表)によると、平年と同様曇りや雨の日が多い予想 (±)</p> <p>2) 巡回調査圃場(6月第2週)では、寄生株率2.6%(4年平均7.3%)とやや少の傾向 (-)</p> <p>3) 一般圃場での発生は、少~並(概してやや少) (-)</p> <p>考察: 大きな増減の要因はなく、予想発生量はやや少と考えます。</p>
ネギ	ネギコガ	-	やや少	<p>要因</p> <p>1) 県予察圃フェロモントラップ(5月5半旬~6月4半旬)では、誘殺数は182頭(平年159頭)と平年並 (±)</p> <p>2) 巡回調査圃場(6月第2週)では、被害葉率0%(平年0.05%)と少の傾向 (-)</p> <p>3) 一般圃場での発生は少 (-)</p> <p>考察: 巡回調査圃場、一般圃場での発生を重視し、予想発生量はやや少と考えます。</p>



## 4. 予察項目の見方

### 1) 「作物別の状況」の見方

発生時期（平年比）： 平年の発生月日からの差を「早、やや早、平年並、やや遅、遅」の5段階評価で予測します。ただし、発生時期が毎年大きく変化する病害虫では、日数の基準が下記より大きくなります。発生時期を予察する意義の小さい病害虫では予察しません。

日数		-6	-5	-4	-3	-2	-1	平年 発生日	1	2	3	4	5	6	
評価		早	やや早		平年並				やや遅			遅			

発生量（平年比）： 発生密度の平年値からの差を「少、やや少、平年並、やや多、多」の5段階評価で予測します。平年値との比較なので、平年値が小さければ、「多」になっても見かけの密度は多くないことがあります。毎年多発生している場合は「平年並」や「やや少」でも見かけ上は多いと感ずることがあります。

		平年値 ↓				
度数	10%	20%	20%	20%	20%	10%
評価	少	やや少	平年並		やや多	多

発生量（程度）： 発生程度を「小、中、大、甚」の4段階評価で予測します。評価の基準値は病害虫毎に異なりますが、大雑把には、「見た目の多さ・少なさ」です。甚になるほど見た目は多くなり、小になるほど見た目は少なくなります。「発生量（平年比）」と比べることによって、「平年並に発生程度が小さい」「発生程度は大きい平年並の発生量である」「平年より多いが、発生程度は小さい」「平年よ

りやや少ないが、依然として発生程度は中くらいである」等のように判断してください。

小	中	大	甚
---	---	---	---

要防除圃場率（平年比）： 防除の必要性の目安を「低、普通、高」の3段階評価で予測します。「普通」であれば、県下の大半の圃場では防除暦に沿った通常の防除をしていれればよいと予想されます。「高」であれば、防除時期の見直しや追加防除などが必要な圃場の割合が相当増加すると予想されます。「低」であれば、防除回数を減らせるか防除しなくても済むような圃場の割合が相当増加すると予想されます。

低	普通	高
---	----	---

発生消長の一例： 発生予報は向こう1か月の予報ですが、その前後を合わせて40日ほどの病害虫の発生消長の一例をグラフで示します。大まかな目安として利用してください。

防除の注意事項： 向こう1か月の病害虫の特性と防除に関する説明です。

### 2) 「発生時期・発生量（平年日）の予察根拠」の見方

（±）：平年並の要因

（+）：発生量増加または発生時期遅延の要因

（-）：発生量減少または発生時期早期化の要因

## 5. 今月のトピックス 「斑点米カメムシ類について」

### 1 斑点米カメムシとは

斑点米（写真）を作るカメムシを総称して斑点米カメムシ類と呼びます。発生密度がそれほど高くなくても米の等級を下げるので、重要な害虫です。

三重県での主な種類は、中型のものはホソハリカメムシ、クモヘリカメムシ、シラホシカメムシ類で、小型のものはアカスジカスミカメです（写真）。多くの果樹のカメムシとは種類が異なります。



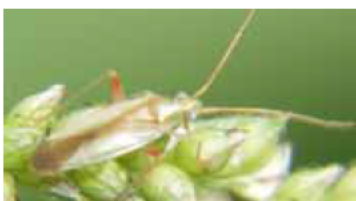
ホソハリカメムシ



クモヘリカメムシ



シラホシカメムシ



アカスジカスミカメ



斑点米の一例

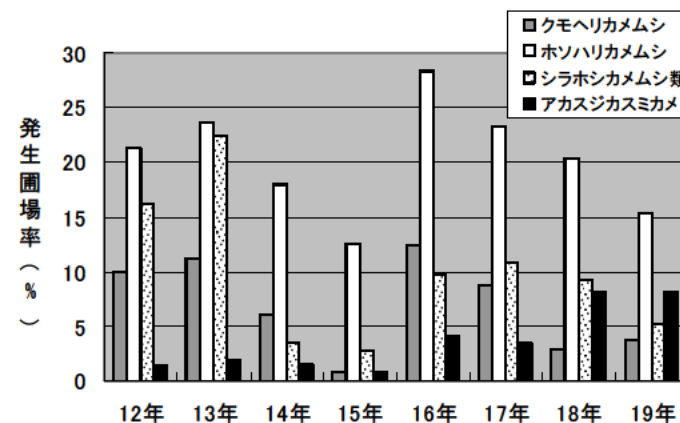
### 2 被害の出かた

斑点米カメムシ類は水田付近のイネ科の雑草地で越冬し、出穂の頃から水田に侵入します。

糊が吸汁されると、屑米になることもあり、また玄米になれば斑点米を作ります。カメムシの種類や加害時期によって斑点の形状が異なります。

### 3 三重県の発生の状況

近年ホソハリカメムシ、クモヘリカメムシ、シラホシカメムシ類は増減を繰り返していますが、アカスジカスミカメ等の小型種は増加傾向がみられます（グラフ）。本県で増加が著しいイネクロカメムシも斑点米を作ります。



三重県における斑点米カメムシ類の推移

### 4 防除の留意点

早生品種では被害が集中する傾向があります。

圃場周辺の草刈は有効な対策ですが、出穂間際の草刈はカメムシを圃場内に誘い込むこととなりますのでできるだけ避けてください。

防除は地域内での一斉防除が効果的です。

穂揃い期に圃場に侵入してきた成虫を対象に防除を行います。

次いで乳熟～糊熟期に増殖した幼虫やその後侵入した成虫を防除します。

水稻に適用があり、カメムシ類に登録のある農薬を使用してください。

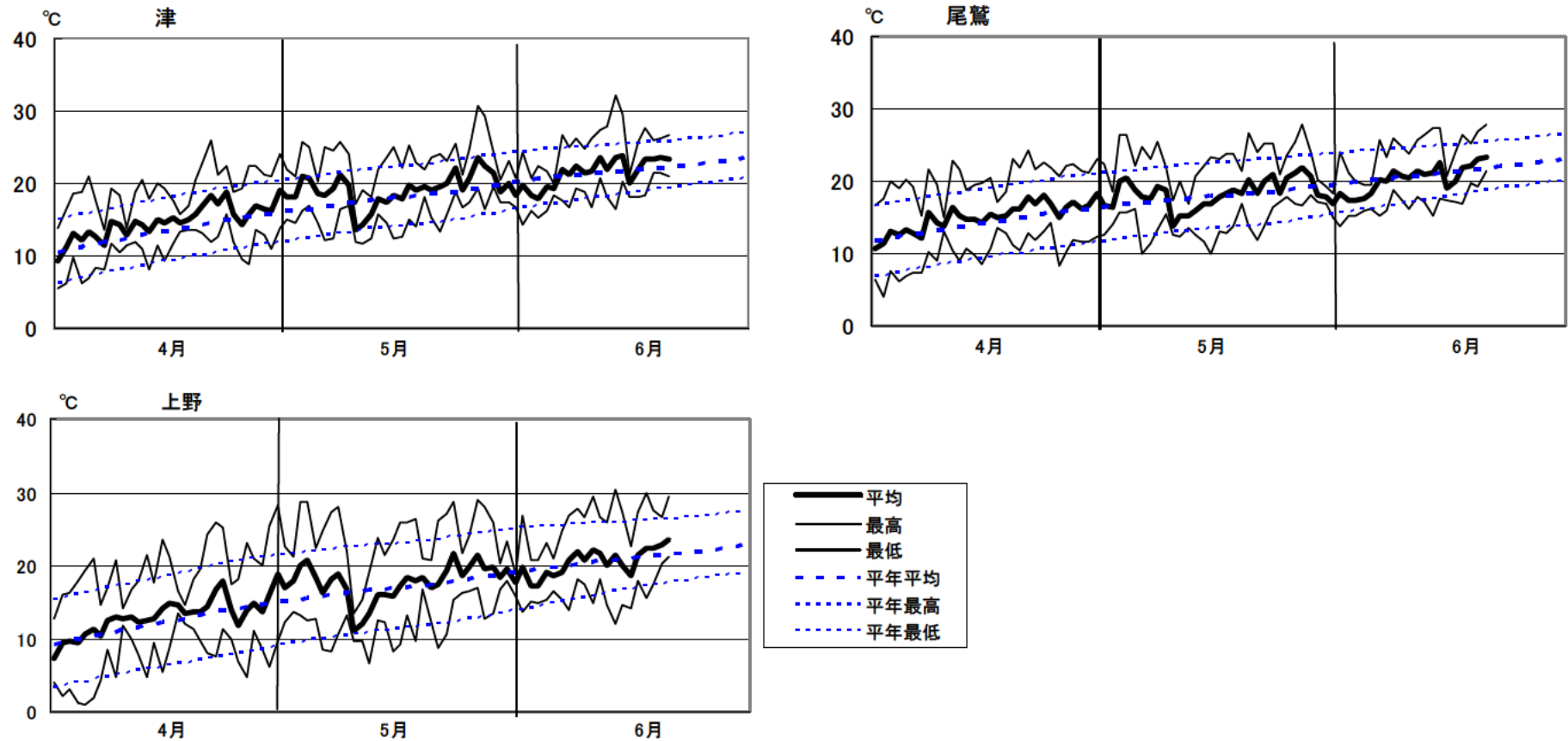
## 6. 気象のデータ

### 東海地方 1 か月予報 (平成 20 年 6 月 20 日 名古屋地方気象台発表)

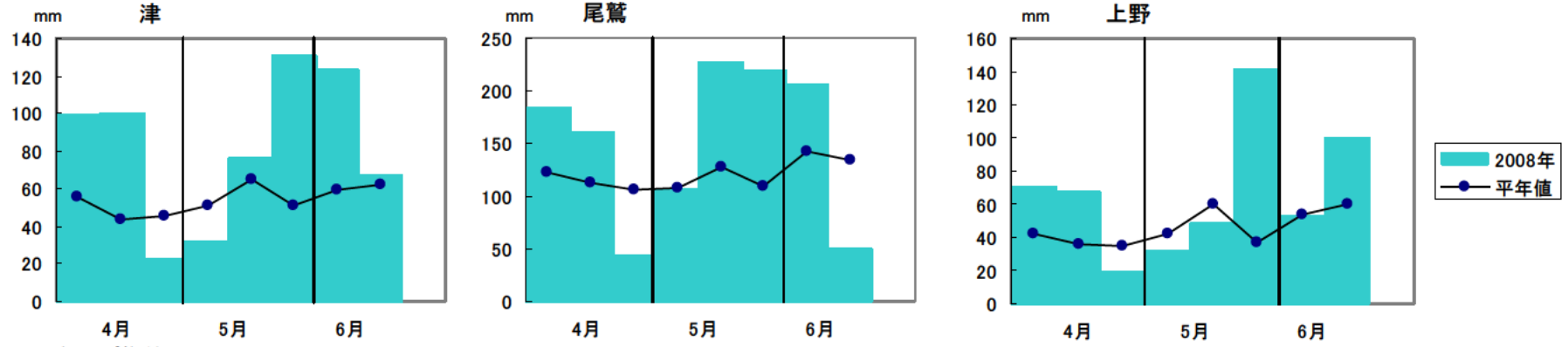
東海地方の向こう 1 か月は、平年と同様に、梅雨前線や気圧の谷の影響で曇りや雨の日が多いですが、梅雨前線の活動が弱まって晴れる日もある見込みです。

1 週目 (6 月 21 日～27 日)	梅雨前線や気圧の谷の影響で曇りや雨の日が続く見込みです。	晴れ日数の平年値 約 2 日
2 週目 (6 月 28 日～7 月 4 日)	平年と同様に、梅雨前線や気圧の谷の影響で曇りや雨の日が多いですが、梅雨前線の活動が弱まって晴れる日もある見込みです。	同 約 3 日
3～4 週目 (7 月 5 日～18 日)	平年と同様に、梅雨前線や気圧の谷の影響で曇りや雨の日が多いですが、梅雨前線の活動が弱まって晴れる日もある見込みです。	同 約 6 日

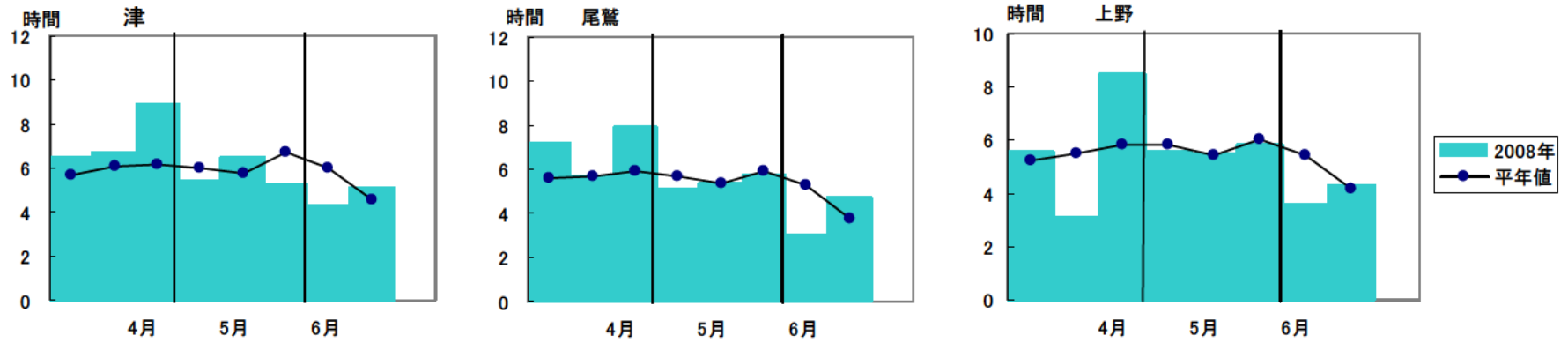
### 気温の日別推移 (気象庁発表データ <http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php> から作成)



降水量の旬別推移 (気象庁発表データ<http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php>から作成)



日照時間の旬別推移 (気象庁発表データ<http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php>から作成)



## 7. おしらせ（前回と異なる項目にはNEWの印があります）

### 1) NEW 利用方法

この病害虫発生予報は、ほぼ定期的に発表されます。本年度の予定は次のよう  
です。

第1回 4月24日（木） 第2回 5月29日（木）

第3回 6月26日（木） 第4回 7月24日（木）

第6回 10月23日（木） 第5回 8月28日（木）

第7回 3月19日（木）

これらの資料は全部または一部をコピーして再配布しても構いませんが、必  
ずページの右下にある「三重県病害虫防除所」の文字が入るようにしてくださ  
い。

病害虫防除所ホームページには、この予報をはじめとして、不定期に発表され  
る警報、注意報、特殊報、技術情報や、各種のグラフ、写真も載っています。下記  
のアドレスからお入りください。

<http://www.mate.pref.mie.jp/bojyosyo/>

このホームページは、原則フリーリンクです。できるだけ多くの農業関係者  
の方にホームページをご覧いただきたいと思っていますので、ぜひ、市町、JA  
等みなさんのホームページにリンク設定していただくことをお願いいたします。  
この場合、事前の承諾申請等は不要です。

なお、事後で結構ですのでメールにてご一報いただきたくお願いいたします。

### 2) メール配信サービス

予報、警報、注意報、特殊報、技術情報が発表されたときに、ホームページに掲  
載されたという「掲載通知」を電子メールでお知らせしています。このメールの

配信を希望される方は、下記のアドレスからお申し込みください。

<http://www.mate.pref.mie.jp/bojyosyo/merumaga.htm>

### 3) 農薬登録状況の最新情報

農薬の販売や使用に当たっては、農薬登録上の制限があります。農薬の使用時  
はラベルをよく読んでください。次のインターネットサイトでは、最新の農薬登  
録状況が確認できます。

独立行政法人農林水産消費安全技術センターの「農薬登録情報」

<http://www.acis.famic.go.jp/searchF/vtllm000.html>

### 4) NEW 三重県病害虫防除の手引き

病害虫防除所ホームページに平成20年1月8日現在の「三重県病害虫防除の  
手引き」を掲載しました。下記のアドレスからお入りください。

<http://www.mate.pref.mie.jp/bojyosyo/nouyaku/tebiki/20080108/20080108tebik.html>

### 5) 本冊子の利用の手引き書

本冊子の利用方法を説明をした「病害虫発生予報利用の手引き」を平成20年  
度用に更新しました。下記のアドレスからお入りください。

[http://www.mate.pref.mie.jp/bojyosyo/yoho/h20yohotebiki\\_.pdf](http://www.mate.pref.mie.jp/bojyosyo/yoho/h20yohotebiki_.pdf)